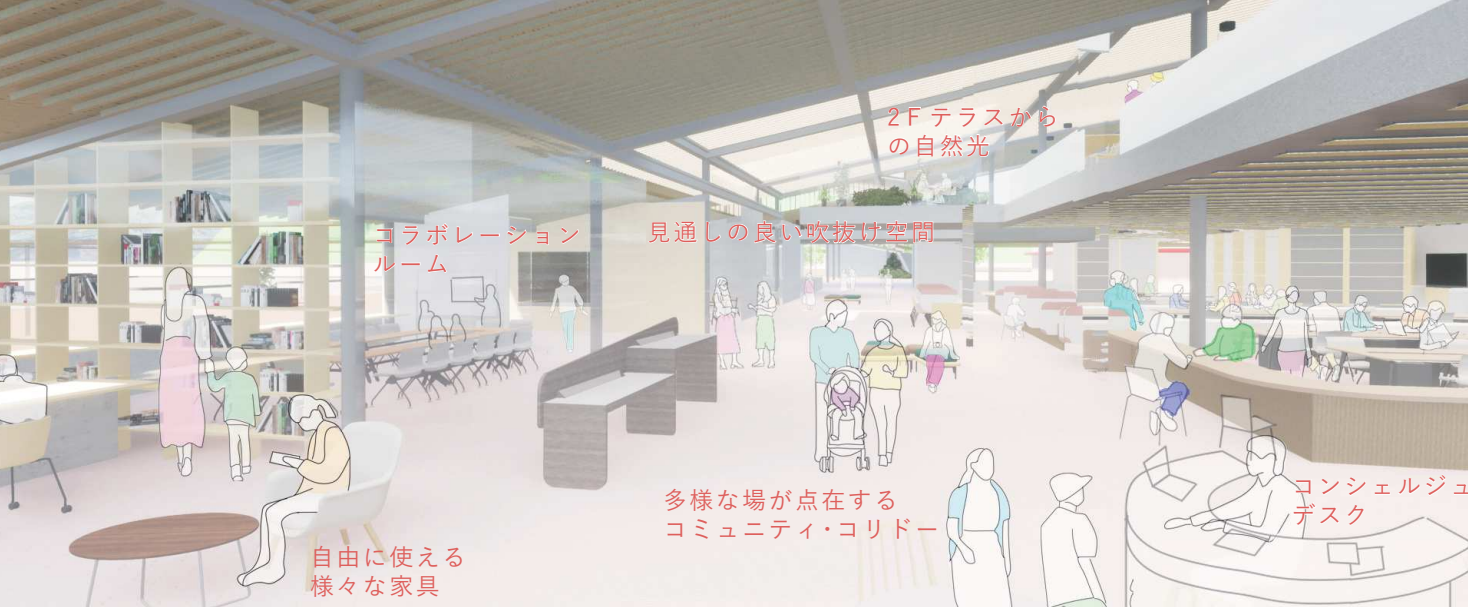




06 良質な建築を生み出すための合理的で堅実な計画です

テーマ1 テーマ4

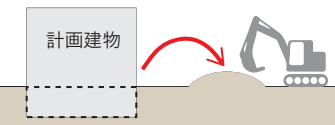
6-1: 夏季休工期間を利用した工事・構造計画

夏季休工、冬季積雪等を配慮してRC造ではなく、鉄骨造またはPCa造、更に木の可能性含めて検討します。

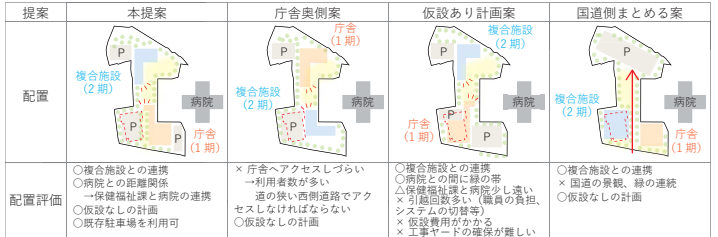


6-2: 発生残土の活用

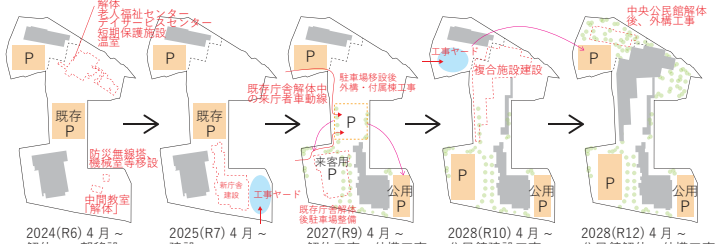
基礎や杭工事で発生した残土をランドスケープ計画内の敷地内の高低差に活用します。



6-3: 配置計画比較検討



6-4: 建て替え計画

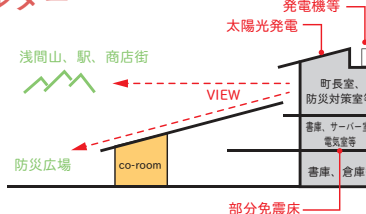


07 日常と防災をつなぎ、災害時にすぐに役立つ防災拠点

テーマ1 テーマ2

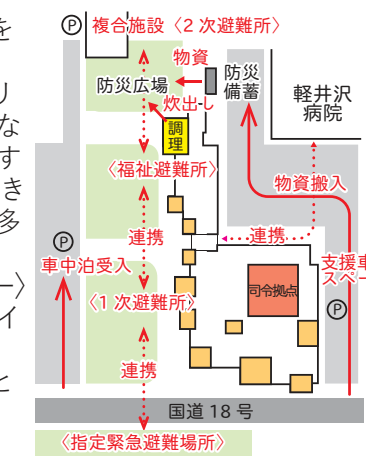
7-1: 指示系統と知の蓄積を守るシェルター

災害時を想定し、指示系統、インフラ設備、書面・サーバーなど早急な復旧が可能となるよう耐火・構造面で強固なシェルターを計画します。町長室、災害対策室等から浅間山や駅、商店街方面が見渡せる配置とします。



7-2: 災害時のフォーメーション

・災害時まちを見渡せる位置に防災対策室を配置します
・底下空間を多く持つ〈コミュニティ・コリドー〉がボランティア活動や物資受け入れなど災害時の活動拠点として有効に機能します
・〈コラボレーション・ルーム〉は、物資置き場やボランティア・自衛隊・赤十字などの多くの応援部隊の活動拠点にもなります
・底下の防災備蓄倉庫を〈グリーン・コリドー〉に配置しテラスと連携させて日常的に防災イベントを開催して防災意識を高めます
・保健センターの調理実習室は炊き出し場として利用可能です
・防災井戸を設置します



7-3: 災害時や感染症対策にも有効な保健福祉課の配置

災害時に炊き出しができるよう広場に面した配置とします。感染症等で動線を分離する必要がある場合は問診室を隔離できる配置としています。また個別での相談にも対応できるよう個室を設けます。



災害時のBCP対応

給水	地下水にて3日間以上対応可能な給水システム 受水槽に緊急遮断弁を設置し飲料水を確保 停電時も運転可能な井戸ポンプで雑用水に利用
給湯	必要箇所に電気湯水器を設置し、非常用発電機による電力供給が可能
排水	庁舎内トイレと庁舎外マンホールトイレを計画し、停電時も利用可能 地下ピット緊急排水槽に3日分の排水貯槽を計画 非常用発電機 (72時間運転可能な燃料確保) 無停電電源装置によるノンダウン配電システムを提
電気	非常用コンセントを駐車場に設 受電回線数の複数化により事業者・需要家側での点検・増改修時の計画停電や不慮の事故による停電に 二重化対応としてループ配線等を計画
通信	二重化対応としてループ配線等を計画
ガス	プロパン・エア発生装置による給湯・煮炊き対応



08 SDGsの考え方を取り入れ、感染症対策や環境に配慮した計画です

テーマ1 テーマ2

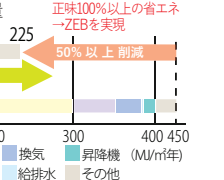
8-1: 感染症対策を取り入れた設備計画

- ・室内の換気の流れを1方向とした「one-way 換気システム」を採用
- ・室内の換気回数・風量を1.5倍程度上げることで空気齢を短く計画
- ・冬の感染予防、健康維持に有効な加湿器を設置
- ・酸化分解力の高いプラズマ放電と空気清浄能力を合わせた空調システムを汎用空調機にて計画
- ・トイレは滞留と対面を軽減するため人の流れを1方通行としたレイアウトを計画



8-2: これからのまちづくりをリードするエコロジー建築

- ・軽井沢町の気候風土と呼応する環境共生型庁舎としてCASBEE-Sランクの実現を目指す
- ・建築・設備の省エネ性能の向上や再生可能エネルギーの活用によりZEBの実現を検討
- ・汎用性のある材料・機器を使用し将来の故障・更新のコストを低減
- ・長期間の使用が可能で且つメンテナンスが容易な仕様を選択すると共に、修繕・更新サイクルの長い仕様とすることで庁舎全体の長寿命化を図る



8-3: 自然エネルギーを活用した断面計画

